

# 人と緑の ホームタウン の 稲美町



万葉の森

稲美町は昭和30年に当時の「加古村」「母里村」「天満村」の3カ村が合併し、町制が施行されました。

かつて万葉集に「いなみ野」と詠まれた水の乏しい台地を先人たちが切り開き、ため池等でかんがい用水を確保し農業を営んできました。明治以降には悲願であった淡河川、山田川両疏水の完成により水田開発が進み、稲穂に満ちた町の基礎が築かれました。

町内には88のため池が点在し、ため池や用水路、水田、集落などによって構成された特有の景観は、文化庁から「稲美のため池群」として文化的景観の重要地域に選ばれています。

また、兵庫県下で最も古い(675年築造)といわれる天満大池のほとりに近畿圏最大級の農産物直売所「にじいろふぁ～みん」がオープンし、朝採れの新鮮な野菜をはじめ加古川和牛、明石の鮮魚などが販売されています。

町の総面積は34.92平方kmで播磨平野東部に位置し、東は神戸市、南は明石市、西は加古川市、北は三木市に隣接し、基幹産業の農業のほか、住宅・工業の供給地でもあります。



稲美町イメージキャラクター  
いなっち



水辺の里公園



野寺山高菰寺鬼追式



天満大池神輿渡御



いなみ大池まつり



加古大池